

な た であらだい ひ かくわにぐち  
那谷寺大悲閣鰐口

種 別 小松市指定文化財 工芸品  
指定年月日 平成19年11月3日  
所在地 那谷町(那谷寺)

鰐口わにぐちとは、寺社の拝殿前の軒下に吊り下げられる法具の1つで、前面に垂らされた布網を振って打ち鳴らし、誓願成就せいがんじょうじゆを祈願する。下辺に大きく開いた口の形からその名があるといわれている。

本件は、那谷寺本堂大悲閣こうはいの向拝の上に吊り下げられた青銅製の鰐口で、面径40.5cm、中心厚15.5cm、口の開き1.2cm、重さ約20kgを計る。裏面に「慶安貳年六月吉日／大工／藤原朝臣あそん／宮崎豊後守／吉綱／御奉行青木新右衛門尉じょう／堀部小左衛門尉じょう」の銘が刻まれている。宮崎彦九郎吉綱ひこくろうよしつな(1586-1657)による慶安2年(1649)の作である。

宮崎彦九郎吉綱は、能登中居(現在の穴水町中居)の鋳物師で、前田利常・光高・綱紀(利常後見)の治政時代、加賀藩お抱えの鋳物師として重用された。裏千家の流祖である仙叟せんそう(宗室そうしつ)と親交が深く、仙叟好みの茶の湯釜などの名品を残した宮崎義一いち(初代寒雉かんち)の父にあたる。鋳物師「吉綱」銘を刻むものとしては、那谷寺三重塔露盤ろばん、羽咋市妙成寺五重塔露盤ろばんが知られる(那谷寺三重塔・妙成寺五重塔は重要文化財に指定されている)。

石川県下で鋳造された中世から近世の鰐口で、現在県内で確認される鰐口は11口を数える。とりわけ本例は、作者及び製作年代の銘が刻まれており、吉綱が鋳造した近世初期の鰐口資料として、極めて貴重である。



鰐口に刻まれてある「宮崎豊後守 吉綱」の銘 →